

# 2014年 常福寺旅行会レポート

5月18～19日の一泊二日で、常福寺旅行会が催行されました。今年は、愛知県三河地方の浄土真宗ゆかりのお寺を巡る旅となりました。

早朝お寺を出発したバスは、北千住、上野を經由して東名高速道路に乗り愛知県へ向かいました。今年も最高の晴天に恵まれて、車窓からは富士山の素晴らしい姿が見られ、また富士山と一緒に世界遺産に登録された三保の松原も遠くに眺めることが出来ました。途中、昼食のため高速道路を下りて由比に立ち寄り、旬の桜海老と生しらすを美味しく頂きました。



由比を後にして、再び東名高速道路に乗り浜名湖SAで休憩を取りながら、午後2時半頃岡崎市にある真宗大谷派三河別院<sup>みかわ</sup>に到着しました。日曜日ということで別院の職員さん方はお休みでしたが、昨年、常福寺の報恩講で『親鸞聖人絵解き法話』を披露された、愛知県西尾市・本澄寺<sup>ほんちようじ</sup>の<sup>なぎの</sup>榎野住職が私たちを迎えて下さいました。



本堂の中に入ると、まずは全員で正信偈<sup>しょうしんげ</sup>をお勤めし、そのあと榎野住職より三河別院の縁起や、この地方と浄土真宗の歴史などのお話を頂きました。お話を聞いた後は、庭園を見学してから別院をあとにし、宿泊地の西浦温泉へ向かいました。

三河別院から小一時間ほどで西浦温泉に到着しました。西浦温泉は、蒲郡市という三河湾に面した温泉が多い地域にあります。今回は、海水浴が出来る砂浜のすぐ横に建つ「銀波荘」という豪華なホテルに宿泊しました。どの部屋も広々とした間取りになっていて、窓からは広い海と対岸の渥美半島がくっきりと見え、自動車産業の盛んな愛知県とあって大きな貨物船がいくつも停泊していて、ダイナミックな景色でした。予定より早めに宿に到着したので、温泉で旅の疲れをいやした後、夜からの宴会では三河湾の新鮮な地魚料理と、榎野住職<sup>なぎの</sup>の琵琶弾き語りによる『蓮如上人<sup>れんにょしょうにん</sup>絵解き法話』を拝聴しました。



蓮如上人とは、浄土真宗の宗祖親鸞聖人から数えて本願寺第八世になる方で、「浄土真宗再興の人」として、北陸地方などでは親鸞聖人以上に親しまれている方です。蓮如上人がお生まれになった当時の室町時代は、本願寺の衰退が甚だしい状況でした。蓮如上人が跡目を継がれてからも幾多の苦難に見舞われましたが、蓮如上人を支えた近江や北陸の門徒の力でそれらの苦難を乗り越えて、現在の大坂城の地に石山本願寺が築かれるまでに教団を大きくされました。その蓮如上人の人生を、琵琶演奏で法話として語る榎野住職の声色はとても力強く、でも一方で場面ごとの感情を表すかのような琵琶の音色に、話を聞きながら涙を流されている方もいらっしゃいました。素晴らしい琵琶演奏を伺って、再び宴会も盛況になって約3時間ほど楽しい時を過ごしました。そのあと、再び温泉に浸かったり、カラオケやおしゃべりでさらに遅くまで盛り上がったりとで、一日目が終了となりました。

翌朝も良い天気になり、朝食の前に浜辺を散歩したり、ラウンジでコーヒーを頂いたりと出発までゆったり過ごした後、二日目最初の行程の、『蒲郡おさかなショッピングセンター』へ行きました。

一日目はお土産を買い控えていた参加者のみなさんも、二日目は帰るとあって色々な海産物を買っていらっしやいました。翌日家でのおかずにと宅配便で送ったり、お店で保冷バッグに入れてもらったり、バスの中の冷蔵庫に保管したりと、安心してお買い物が出来ました。

おさかなショッピングが終わると、次は西尾市へ向かい、名産品の抹茶を生産している工場見学に行きました。西尾市は、抹茶の生産日本一ということで、茶摘みの時期には地元の小中学生を動員して新芽を摘み取るそうです。抹茶になる茶畑は普通の茶畑よりも低い感じで、町の至る所で目にしました。

私たちが訪れた『<sup>あおい</sup>葵製茶』では、機械で茶葉をひいて抹茶が作られている現場と製品化されるまでの説明を聞いて、最後に和菓子と抹茶の接待を受けました。とっても風味豊かでコクのある美味しい抹茶でした。温かい抹茶と冷たい抹茶の2種類を飲ませて頂きましたが、それぞれ違った



味わいがあり、併設された店舗で生産地ならではの抹茶製品を購入出来ました。

二日目の昼食は、その抹茶工場から目と鼻の先にあるうなぎ料理のお店で、うなぎ定食を頂きました。西尾市よりさらに海に近い一色町という所は、うなぎの大産地で、訪れたお店では抹茶になる茶葉とうなぎを釜めしにした物がおすすめ料理でした。かば焼きよりあっさりした味で、みなさんに大好評のお味でした。この旅行会が決まるまで、抹茶は京都、うなぎは浜名湖が名産品と思っていたのですが、今回愛知県の特産品だったと知って、恥ずかしながらもっと勉強しなきゃいけないなあと思ってしまいました。

そして旅の最後は、豊田市にある真宗大谷派<sup>じょうしょうじ</sup>浄照寺を訪れました。浄照寺は、前号の住職の法話で取り上げた真宗大谷派<sup>は、そ きょうによしやうにん</sup>派祖の教如上人が住まわれていた「北の御所」と呼ばれる建物が移築されたお寺です。本堂にお参りして、浄照寺の渡辺住職より書院の中を案内して頂きました。さほど広くもなく簡素だけれども、<sup>らんま</sup>欄間やふすまの細工が丁寧に施されたいくつかの部屋があり、一番奥に徳川家康と重臣の本多正信、教如上人が会談を行っていたという部屋がありました。渡辺住職の説明を聞きながら当時のことを想像すると、目の前に大河ドラマのワンシーンさながらの登場人物たちが会談を行っている光景が浮かぶようでした。とても貴重なものを見せて頂いたと、みなさん喜んでいました。

今年の旅行会は、常福寺住職と同年代の榑野住職、渡辺住職のご協力を得てとても貴重な体験が出来た旅行会でした。特に榑野住職は、初日の三河別院から二日目の旅程が終了するまで現地案内役として私たちに同行して下さいました。自坊から



蓮如上人の絵伝掛け軸を持参して下さい、本当にお世話になりました。今後も常福寺にお招きして素晴らしい琵琶の法話を聴かせて頂きたいと思います。また、旅行会は(株)東武トラベルに企画運営のサポートをお願いしています。担当の依田社員が、こちらの希望を汲んで色々なお店や観光地をリサーチしてくれます。添乗員として同行もして下さいるので最初から最後まで安心した旅行が出来ます。今後もみなさんに喜んで頂けるよう思案していきますので、多くの方のご参加をお待ちしています。(文・坊守)